

「親の学び」次世代編実践協力校 実践事例紹介

～錦町立錦中学校での実践～



【球磨教育事務所】

「生徒同士のつながり」「自立に向けて考える」機会を
～つながり、コミュニケーション、自己認知、喜怒哀楽をキーワードにして～



① 職員での進行役養成講座の復講

【 講座の日程等 】

開催日：令和2年10月27日（火）

場 所：錦町立錦中学校 各教室

日 程：4校時（11：20～12：10）

対 象：錦中学校 第1学年～第3学年の全生徒

進行役：錦中学校職員（学級担任及び副担任）

- ・進行役養成講座に参加をした職員が校内で講座内容を復講し、全職員で実践。（①）

【 講座の説明 】

くまもと「親の学び」プログラム次世代編Ⅰ・Ⅱ（全24プログラム）から、各学年の実態に合ったプログラムを選択し、全学級とも特別活動として実施した。



② 各学級でのねらいの確認

【 プログラムの実際 】

(1) アイスブレイク

幸せじゃんけん、聖徳太子ゲーム他

(2) ねらいの確認 (②)

(3) メインプログラム

（第1学年）「すごろくトーク」～広げよう友達の輪～

（第2・第3学年）「フレンドリービンゴ」(③)

～親しくなろう、仲間を増やそう～

（特別支援学級）「イライラ解消法」

～見つけたよ、my リラクゼーション～

「うれし、恥ずかし、顔文字づくり」

～自分の気持ちに向き合って～

(4) まとめ

プログラムを通して気付いたことや感想等を記入し、学級内で発表し合い共有する。



③ 友達同士でフレンドリービンゴ

【 生徒・進行役（担任）の感想 】

- クラスメイトの個性を改めて理解することができた。普段聞けないことをたくさん聞くことができて、より仲を深めることができたのでよかった。（中1生徒）
- 新型コロナウイルスや令和2年7月豪雨による度重なる休校で、生徒同士でコミュニケーションを取る機会が減少していた。今回のくまもと「親の学び」プログラム次世代編の取組により、すごろくトークをプログラムに取り入れ、生徒がこれまで話していなかった友達と笑顔で話したり、積極的に質問したりする等、楽しんで取り組む姿があった。（中1担任）
- 特別支援学級における取組では、ソーシャルスキルトレーニングに繋がる内容を取り入れて実施した。気持ちのコントロールやコミュニケーションの取り方について考えることができたよい機会となった。今後も、生徒の実態に応じて、プログラムを活用する機会を増やしていきたい。（特別支援学級担任）